



Scattered Seed.

ばら撒かれた精子

Interviewee

Ms. Jacqueline Mroz

Q. 自己紹介をお願いします。

長年、ジャーナリストとして活動してきました。NY タイムズで科学と健康の分野で記事を執筆してきました。その頃、自分の妹が精子ドナーを使って妊娠しようとしていた。妹から教えてもらったのは、精子ドナーを使った人が、のちに自分の娘には76人ものドナーきょうだいがいることを発見した記事を読んだということ。これは、ジャーナリストとしてレポートしたら面白いと思った。そして、NY タイムズでこのことに関する記事を書き始め、その後の記事の発表につながっていった。

不妊産業についてさらに幅広く調査を行い、*Scattered Seeds* という本を出版した。この本は、米国における不妊産業をテーマにしている。

Q. 米国では、今でも、匿名ドナーが主流でしょうか。男性はどのような目的で精子を提供しますか？

匿名ドナーの数は、米国ではかなり減ってきている。ほとんどの精子バンクでは、身元を特定できるドナー (identified donor) を提供している。依頼親から見ると、匿名か、オープンか、どちらか好きな方を選ぶということ。取材でインタビューをしたドナーたちは、お金のためという人、利他的な理由という人、世界中に自分の遺伝子を撒きたいという人がいた。

Q. 米国の精子バンクの管理で問題点がありますか？

問題点だらけだ。自分が見るところ、精子バンクはレシピエント家族やドナーに対して、オープンではない。それとは全く逆

で、秘密主義。ドナーが精子を提供した場合、ドナーは自分のドナー番号を知らされない。だからドナーは自分の精子から何人の子供が生まれたかを知ることができない。精子バンクは、そのことについて追跡していないようだ。

さらに、精子バンクは、ドナーのバックグラウンドのチェックをきちんとしていないし、生まれた子供に対してドナーの健康情報のアップデートを提供していない。

Q. 取材した事例で、興味深いエピソードや印象深いエピソードはありましたか？

最近、調べた事例で、アメリカ人の産婦人科医が、自分の精子を使って患者を妊娠させていたということ。当時、近代的な遺伝子検査が登場して、自分たちの行いが明るみに出ることを誰も予測できなかった。ニューヨークに住む私の友人でもある3人の医師たちは、このようなことを過去にやっていた。23andMeなどの遺伝子検査によって、彼らの秘密は解明されている。

例えば、医師が提供した精子から生まれた女性たちが、成長して患者として産婦人科を訪れるといったことが起こっている。彼女たちは、自分の主治医が、自分の遺伝的父親だということを知らない(※もし女性たちがその医院で出産したなら、彼は自分の孫の出産に立ち会ったことになる-日比野)。

自分が発掘した3人の医師たちのうち、1人は死亡し2人はまだ生きていた。彼らの精子から生まれた女性の一人は、地域の弁護士事務所に相談を持ちかけた。しかし、法律上、被害者は彼女ではなく、母親ということだった。だから訴訟は難しい。

精子バンクのドナーのプロフィールには偽りも多い。例えば、ドナーはアイビーリーグの大学に通っていて、IQが高く、仕事に成功している、などなど。しかし実際にはそうではない。Xytexという精子バンクで発生したトラブルがよく知られている。ドナーのプロフィールには魅力的な条件が書いてあったが、実際には、そのドナーは大学に行っておらず、犯罪歴があり、統合失



調症だった。両親はそのことを知り、精子バンクを訴えた。それは法的に長い紛争プロセスになったが、最終的に両親は何も得るものがなかった。

こうした訴訟を多く扱っている法律事務所がある。例えば、夫の精子で妊娠したと思っていたカップルが、のちにDNA検査をしてみると、病院のミスで誰か他の男性の精子で人工授精されたことがわかったケースなどがある。

Q. 米国の法律で、精子ドナーは父親ではないとはっきり規定されていますか？ 親権・認知をめぐる裁判は起こっていますか？

精子バンクを利用したのか、クリニックで実施したのか、精子ドナーから私的に提供を受けたのかによって異なる。ソーシャルメディアや友人を通してドナーと個人的に知り合った場合、ドナーは子供の養育に責任を負わなければならない可能性がある。その例の一つとして、生活保護を受けている母親に対して国家の代わりにドナーが支払いをすべきだとされた判決事例がある。

変わったストーリーをたくさん知っている。ドナーから生まれた人のためのオンライン・グループに登録していると、毎日のように、自分がドナーから生まれたことを知ったという人々の話が投稿される。60-80年代、医師は子供に真実を話さないようにと親に教えていた。今日では、子供に早い時期から知らせる方が良いと皆が理解している。

Q. 遺伝子検査を受けてドナーを発見する人が増えていますが、米国で、匿名ドナーからの権利擁護の運動はありますか？

匿名ドナーで権利を主張している人について聞いたことがない。人々の話題は別の面にフォーカスしている。人々は、ドナーから生まれた人に、情報にアクセスする権利、出自を知る権利を付与するための法律をプッシュしている。

Q. 米国では生殖医療が商業化されています。生まれてきた子供はこの事実をどのように受け止めているのでしょうか？

ドナーから生まれた多くの人たちが、真実を知って、怒りと困惑を覚えている。自分が本を書いたとき、法律の変化を求める人はいなかった。しかし、現在、多くの子供たちが成長し、彼らの声が大きくなってきている。

米国とイギリスを比べると、イギリスではかなり規制されている。イギリスでは、ドナーから生まれる子供の数は制限されているし、ドナーへの支払い可能金額なども決められている。ただドナーの数は不足していて、それが一つのダウンサイドだと言える。

米国では、ドナーのバックグラウンドのチェックや健康上の問題のスクリーニングは最小限しかやっていない。そして、人気のあるドナー場合、数百人の子どもが生まれていることもある。不適切な行いも多い。稀な遺伝病を持つ子供たちも生まれている。

自分自身はそれほど多くの精子ドナーにインタビューしたわけではない。Donor Sibling Registryがドナーに対する調査を行った。その結果、金銭が最も主要な動機で、週に3回提供して、月に1,500ドルもらえるケースもあるなど、かなり魅力的であるようだ。

米国では、精子バンクは、ドナーを集めるため、活発に宣伝広告をしている。大学がある街の大学新聞には、ドナー募集広告が頻繁に掲載されている。アイビーリーグの場合は特に。

Q. DCによる「多様な家族」は米国社会ではどの程度、受け入れられていますか？ 子供たちは差別や偏見に遭遇しますか？

70年代から80年代にかけては、シングル女性やレスビアン女性には精子を販売しない精子バンクすら存在した。しかし現在では、そうした女性たちが主要な顧客になっている。こうしたことは、ますます受容されている、特にリベラルな地域では、自分



はニュージャージー州に住んでいるが、ここはとてもリベラルで受容的。保守的な中西部では、その景色はかなり異なったものになるだろう。

Q. ドナーきょうだいとの交流は、ドナーが匿名で会えない場合にドナーから生まれた人にとってどのような意味がありますか？

ドナーきょうだいを探すことは、自分と似た人、似た関心を共有する人など、もう一人の家族を見つけるための方法だと思う。特に、シングルマザーの子供にとって、それは、新しい家族を見つけるのに似ている。

Q. ドナーとポジティブな交流をしている子供の例、拒絶されたり、ネガティブな経験をしている事例があれば教えてください。

このことについて調査をしたことはない。ただ、ポジティブもネガティブも両方ともあるだろう。インタビューした一人の女性は、ドナーから生まれた人たちのための権利擁護をするようになった。彼女は、ドナーだと思っていた男性と、とても良い関係を築いていた(例えば、祖父のような)。しかし、後になって彼はドナーではないとわかった。わかったのは、母親の主治医が、自分の精子を使って患者(=母親)を妊娠させたということだった。

“Serial Donor” についての興味深い話もある。オランダには、自分の精子を使って多くの患者を妊娠させた有名な不妊治療医がいる。自分がこの医者について書いたのを讀んだ、ある読者が、もっとたくさんの女性を妊娠させた別のオランダ人ドナーについて教えてくれた。このドナーは、オランダのクリニックで提供できる回数に最大に達していたため、ソーシャルメディアにアクセスして、精子を求める女性とつながった。その後、彼は、もっともっと提供するために海外に渡航した。彼が1,000人もの子供をもうけたかもしれないという見積もりがある。彼には世界中に子供がいて、そ

のうちの何人かはネットワークを形成している。

同様の話は、オーストラリアの 60 Minutes テレビ番組で、Joe Donor というニックネームの男性について放映された。彼はアメリカ人で、精子を提供しながらオーストラリアを旅していた。

Q. 著書(Scattered Seeds)に対する反響は？

精子バンクは、私が本で書いたことについて不満だった。彼らは、私の信用を傷つけようとして、アマゾンに否定的なレビューを書かせた。それを除けば、自分が受け取ったほとんどのフィードバックは良いものだった。私の本は、時代の先をいっていたと思う。それ以来、このトピックはより主流になった。自分の著書の主な読者層は、ドナーから生まれた人と、研究者だと思う。

Q. 生殖医療に関して最近の動きで興味があること。今後取材してみたいことは？

家庭でDNA検査を行う人が増え、毎日のように、ドナーから生まれたことを発見する人が続出している。その結果、ますます多くの訴訟と、規制への要求がある。現在、生殖医療の規制に関してニューヨーク州だけで3つの法案が提出されている。

もう1つの興味深い観察は、提供精子の価格がどんどん上昇していること。現在、1アンプルあたり約500米ドルで売られている。精子バンクの評判を高めるために多くの料金を請求しているのかもしれないが、その推測が当たっているかどうか、はっきりとはわからない。

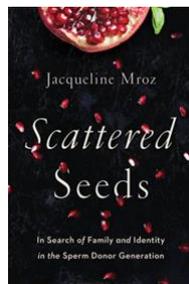
ジャーナリストとして、別のトピックについても書いているが、それでも生殖補助医療は魅力的なテーマだと感じている。業界が適切に規制されるまで、興味深い出来事がこれからも生じるだろう。

(2022年2月)



Jacqueline Mroz [Link](#)

作家でジャーナリスト。
ニューヨーク、ボストン、ニュージャージー、ブエノスアイレス、アルゼンチンで仕事をしてきた。ニューヨークタイムズに掲載された 150 人の子供を持つ精子ドナーについての記事が知られている。ニュージャージー州で夫と 3 人の子供たちと暮らしている。



Scattered Seeds : In Search of Family and Identity in the Sperm Donor Generation. Seal Press (2017).